

Y project

ICTで子ども達の世界が広がる

臼井 芽亜（中部大学 現代教育学部 幼児教育学科 4年）
浅井 伽方（中部大学 現代教育学部 幼児教育学科 4年）
内藤 峰愛（中部大学 現代教育学部 幼児教育学科 4年）

現在の保育

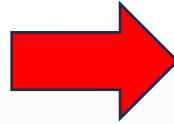
子どもの主体的な活動が重要



子どもの「やってみたい」「試してみたい」と思って動き出すことを中心とした活動

心と社会性を発達させる 意欲・思考力・自己肯定感等

自分の考えを誰かに伝える
相手の意見聞く



友達との関わりで成長

子ども同士の関わりを大切にした集団をつくり、
一人一人が認められ、自分らしくいられる経験を

社会的背景

小学校

2019年6月

「学校教育の情報化の推進に関する法律
(令和元年法律第47号)」が公布

→教育におけるICTを基盤とした先端技術等の効果的な活用を目指してGIGAスクール構想がスタートした。



保育所

保育・幼児教育に活かす

- ・ 保育者の負担軽減や保育の質の向上を目的として、子ども達の成長記録、連絡帳などにICTが利用されている。
- ICT技術そのものを保育教材として利用しているケースは少ない。



ICTの活用により、日々の園生活では体験できない交流が子どもの育ちを支える一助になるのではないか

期待する効果

体験的な経験を演出し、双方で感じあえるシステムを構築

五感で感じる
直接体験



ICTを活用した活動で
の間接的な体験



出典：日本自然保護協会HP
<https://www.jpnpac.jp/magaz.jp/2015/08/15/ne/20815/>

子どもたちが新たな他者と出会い、興味・関心の幅を広げられる。
現実では関わることのできない遠隔地の子ども、人との交流ができる。

概要

大学



Web会議ツール
「Zoom」を使用

高山



四日市



モニター：RICOH社の「Interactive Whiteboard A6500-Edu」を使用。

実践事例①

第1回「箱の中身はなんでしょう？」

Zoomの画面を通して「箱の中身を当てる」という活動を企画・実践。
進行は大学にいる学生が行った。

- ・ 日時：2024年8月2日（金）10：30～11：30
- ・ 対象：高山市立S保育園 年長児16名
幼保連携型認定こども園Iこども園 年長児23名



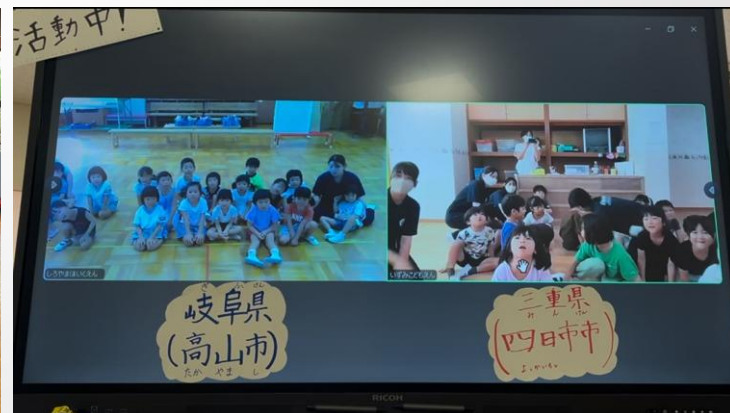
実践事例②

第2回「ジェスチャーゲーム」

第1回目と同じ園である2つの園をzoomで繋ぎ、画面を通して相手の園の子どもにジェスチャーでなんの動物かを伝える活動を企画・実践。

第2回は進行役の学生を配置せず、現地の学生が相互にやり取りしながら活動を進めた。

- ・ 日時：2025年8月4日（月）10：00～11：00
- ・ 対象：高山市立S保育園 年中児14名・年長児6名
幼保連携型認定こども園Iこども園 年長児24名



1 Proj
活動中!

四日市の子ども達が動物になりきる!!



岐阜県
(高山市)
たか やま し

三重県
(四日市市)
よっかいち

RICOH

実践事例②

第2回「ジェスチャーゲーム」

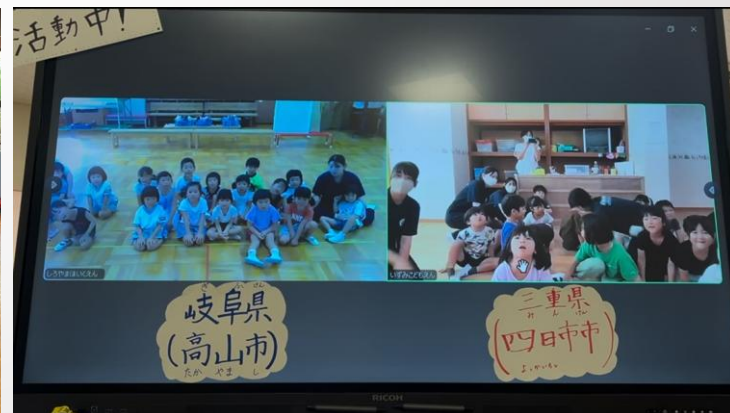
第1回目と同じ園である2つの園をzoomで繋ぎ、画面を通して相手の園の子どもにジェスチャーでなんの動物かを伝える活動を企画・実践。

第2回は進行役の学生を配置せず、現地の学生が相互にやり取りしながら活動を進めた。

・ 日時：2025年8月4日（月）10：00～11：00

・ 対象：高山市立S保育園 年中児14名・年長児6名

幼保連携型認定こども園Iこども園 年長児24名



実践事例①

- ・子どもたちが主体的に「言葉によって伝える難しさの実感・状況を考える・答えを探す」経験をサポート
- ・戸惑いはあったが、進める中で理解が深まり、画面越しの相手を意識して伝えられるようになった。

実践事例②

- ・テーマの動物の動きをイメージできるようサポート
- ・表現に個人差があったが、学生の支援により、苦手な子どもも参加しやすくなる様子が見られた。

実践成果

- ・ Zoomで遠方にいる他園の子どもたちの姿が映し出された瞬間、一気に画面に興味を持つ子どもの姿が印象的であった。
→違う環境で生活する子どもとの関わりに対して、驚きや喜びを感じられた。
- ・ 子どもたちが普段目にするスマートフォンやタブレット PCとは違い、ほぼ等身大で人が映る電子黒板のサイズの効果
- ・ 「言葉による伝えあい」を子どもたちが考え、周囲と相談し、試行錯誤しながら一生懸命取り組む姿が多く見られた。

まとめと今後の課題

- ・ 実際の子どもの様子から見てもICTの活用は保育において有効であり、今後も様々な活動を展開できると考えられる。

- ・ この取り組みには各デバイスの機能的な限界や通信電波の問題等、まだまだ課題は多い。



- ・ 今後考えている過疎地の園での実践では、これらの問題は更に大きくなると考えられる。こうした課題を一つ一つ検証し、克服していかなければならない。

ご清聴ありがとうございました。

